

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス事業所 キッズハウスフレンド		
○保護者評価実施期間	令和6年 11月 11日		～ 令和6年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 10日		～ 令和6年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・職員間で、何でも話せる環境を作っている。 みんなで話せることで、支援のやり方など具体的に話している。	・事務やミーティング時に、困りごとはないか確認をしたり、一人一人が意見を言える場を作っている。	・業務的ではなく、もっと気軽に話ができる時間を作る。
2	・多面的に活動内容を考えて、課外活動等で普段できない体験ができている。	・課外の場所を下見に行ったりして、スムーズに活動できるよう事前に打ち合わせをしている。 ・公開療育や研修を通して、活動に取り入れている。	・物作りなどの体験ができるように情報収集したい。
3	・児童発達と放課後等デイサービスが同施設内の為、放課後等デイサービス移行がスムーズ。 ・隣に児童クラブがあるので地域交流ができている。	・児童クラブとの遊びが楽しいものになるように、打ち合わせをし内容を考えている。 ・児発の時から放デイの場所を見たり、職員との面識がある。	・毎月1回は、児童クラブと合同遊びができるように計画していきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・他事業所・他専門職との連携不足。	・学校や事業所との連携をこまめにとる。 ・児童の心理面を理解したい時に頼れる心理士さんとのつながりを増やしていきたい。	・定期的に学校との連携をとっていく。 ・児童発達センターや行政機関との連携を増やしていき、個々に合った支援に繋げていく。
2	・バリアフリーではない。 ・入り口がオートロックではないため、児童が勝手に出てしまうことがある。	・玄関前は段差がある。 ・児童が自分で開けて出入りする。	・児童が勝手に飛び出すことを防ぐために、オートロックにするよう検討中。
3	・職員全員が、児童の特性を理解したうえで、支援していききたい。 ・運動面で、目を引くような遊具がない	・特性について知識を得るものがない。(パートさん等) ・鉄棒やロープ、大マット等、大きく身体を動かせる物が少ない。	・研修への参加や事業所独自の勉強会等を開き、知識を得る機会を作る。 ・今後、運動面で使える遊具等を整備する。